

# 感動の場

## 『森の入口の白い樹』

1979年 小川原 脩 画



白樺は倶知安で暮らす私たちには身近な樹木ですが、「シラカンバ、ダケカンバ、ウダイカンバ」の3種を区別せずに白樺と呼ぶことも多く、小川原作品に登場する「白い樹」も、はっきりとどの樹種かまでは分かりません。すらりと真っすぐ伸びた形、あるいは風雪に耐えるようにどっしりと太くなったその姿かたちから、シラカンバかな、ダケカンバかな、と想像します。

白樺の幹が大きく描かれ、その枝の一本にフクロウが留まっている今回の絵。繊細な筆づかいによって、冠毛に沿って鋭く吊り上がる眼、がっしりと枝をつかむ爪が描き込まれ、さらに羽毛からは柔らかさまでもが伝わってきます。枝と幹を中心に濃紺をまとい、吸い込まれるような静寂の森が背後に続いているようです。闇夜にあって、輝く白い樹皮とフクロウという命あるものの息遣いは、強い存在感を見せています。

馬・犬・オオハクチョウの作品を数多く描き「動物の画家」とも呼ばれる小川原脩ですが、森の息吹に包まれて北の自然に生きる動物たちにも、その温かなまなざしを向けていたのです。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

## —中谷宇吉郎と着氷実験—

# ふるさと探訪

453回

かつて、第二次世界大戦中の1943年から1945年までの間、ニセコアンヌプリ山頂で木造2階建ての観測所と2機の戦闘機を使って、着氷防止の策を探るための大規模な実験が行われました。着氷とは、上空で氷点下まで冷えた霧の粒が物にぶつかり、表面に凍り付く現象のことで、航空機の墜落原因として「航空最大の敵」とも言われ、重要な課題となっていました。そして、その任に就いたのが「雪は天から送られた手紙である」の言葉で知られる雪の科学者、中谷宇吉郎。彼は幾人かの研究者とともに数年の歳月と予備実験を経てニセコアンヌプリを選び、1941年には着氷に関する基礎研究を行い、翌年には世界で初めて着氷のメカニズムを解明。その成果が認められ1943年から山頂に高圧電線や風洞（風を起こす装置）などが設置された観測所が建てられ、さまざまな研究が行われました。終戦を迎えたことで着氷防止のための技術的な応用には間に合いませんでしたが、この先駆的な研究データは戦後各研究者の手でまとめられ、世に出されました。

今ではコンクリート製の台座と「ニセコ観測所跡」の石碑が残るのみとなったニセコアンヌプリの山頂ですが、宇吉郎らの研究成果は現在の航空分野をはじめ、多様な分野の礎となっています。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



ニセコ観測所跡の石碑

## 倶知安風土館 中谷宇吉郎生誕120周年記念展「ニセコアンヌプリの着氷実験とそれを支えた地域の人々」

会期：1月16日(土)～2月28日(日)

協力：中谷宇吉郎生誕120年記念事業実行委員会、中谷宇吉郎雪の科学館、北海道大学総合博物館

## 展覧会のお知らせ

### ■第1展示室

#### 第62回「麓彩会展」

後志地方にゆかりの深い道内外の美術家26人による、地域から発信する展覧会。地域の多彩な美術を一望のもとに見渡すことができます。

会期：開催中～2月7日(日)

### ■第2展示室

#### 小川原脩展「世界へ向かう：シュルレアリスムと美術」

会期：開催中～1月11日(月)

#### 小川原脩展「《森の入口の白い樹》と北の動物たち」

戦後、故郷・倶知安で創作に打ち込んだ小川原脩の主要なモチーフとなったのは馬・犬・オオハクチョウなどの動物と伸びやかな姿の「北の動物たち」でした。アトリエから数歩歩いた先で出会う、神秘的なダケカンバに抱かれ、キタキツネ、フクロウ、リスなどが織り成す静謐な空間—「森の入口の白い樹」の連作を中心に、小川原が描く北の動物たちを紹介します。

会期：1月16日(土)～4月18日(日)

## アート・イベントのお知らせ

### ■土曜サロン※いずれも映像ルーム（無料）で定員10名

#### 世界のグレートアーティスト(7)

##### 「巨匠が愛した名画 ピカソの寄贈作品展」

日時：1月9日(土) ①14時、②15時 お話し：柴 勤（館長）

##### ユネスコ世界遺産(6)「イスラム」

日時：1月23日(土) ①14時、②15時 お話し：柴 勤（館長）

##### アート探訪(38)「ゴーギャン～我々はどこから来たのか？」

日時：1月30日(土) ①14時、②15時 お話し：柴 勤（館長）

### ■ミュージアム・コンサート「あなたが選ぶ音楽会」

テノールの佐藤貢さんを中心にヴァイオリン、クラリネット、ピアノで構成される札幌のアンサンブル。事前に皆さんからいただいたリクエスト曲をもとにしてプログラムを組み立てました。

日時：1月16日(土)14時～15時 会場：当館ロビー（無料）

定員：40名（予約制）

出演：コンセール・アミ（佐藤貢さん・丸山みゆきさん・吉田聖子さん・塚越由り映さん・柴瑞穂さん）

予約受付：1月6日(水)9時から電話申込（☎21-4141）※新型コロナの状況により延期・中止の場合有

### ■風土館特別講演「雪博士のゼロ戦 発見秘話—ニセコアンヌプリ着氷実験—」

1990年、ニセコアンヌプリにて、戦時中の着氷実験で使われた戦闘機—ゼロ戦の主翼—が発見されました。発見の第一人者である相原秀起さんを講師に迎え、発見までの経緯や当時の様子についてお話しいただきます。

日時：1月23日(土)13時30分～15時 講師：相原秀起さん（北海道新聞社小樽支社支社長）

会場：倶知安風土館2階 定員：30名（予約制）※展示を観覧する場合には観覧料がかかります

予約受付：1月6日(水)9時から電話申込（☎22-6631）※新型コロナの状況により延期・中止の場合有



小川原脩記念美術館 ☎21-4141

観覧料：一般 500円(400円)

高校生 300円(200円)

小中学生 100円(50円)

倶知安風土館 ☎22-6631

観覧料：一般 200円(100円)

高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時

入館は16時30分まで

※（ ）内は10名以上の団体料金

1月の休館日 毎週火曜日

1日～5日（年始のため休館）

美術館のみ13日～15日

（展示替えのため休館）

## こんな時にこそ！

一年ぶりに開かれた知り合いのクラシック・コンサート。お客さんはいつもの3分の1。主力客層である高齢の方には声を掛けていないので、この人数は織り込み済み。採算も当然問題外、自分たちの演奏を待っている人たちがいる、その思いを胸にメンバーたちは入念なりハーサルを繰り返してきたそうです。

客席からは、ゆったりと、それでいて熱心に耳を傾けている様子が伝わってきました。みんな楽しんでるな、この時を待っていたんだな、と私も胸が熱くなったものです。

館長 柴 勤